



JAPAN HANGGLIDING FEDERATION

JHFレポート

7・8月号
2000年

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

<http://jhf.skysports.or.jp/>

夏空に向かって



パラグライディング日本選手権より。表彰式でシャンペンシャワー。



ハンググライディング日本選手権の選手と役員集合。お疲れさま！

地上の暑さを忘れ三次元に遊ぶ。 この解放感を安全に味わいたい。

夏空の解放感は特別だ。厚いフライトスーツを脱ぎ身軽にテイクオフすれば、涼風が迎えてくれる。地上の暑さを忘れて三次元に遊ぶひとときは、なにものにもかえがたい。

しかし、この至福のときも、たったひとつのミスで苦痛に満ちたものになることがある。事故は多くを奪う。空を飛ぶ自由を、そして時には生命まで。

夏のフライトの解放感に、プレフライトチェックを怠ることのないように、風を読み違えることのないように、己の能力を過信することのないように。いつもどおり慎重にフライトにのぞみたい。特に水辺で飛ぶ際は、絶対に着水しないよう注意する。また万一着水したらどうするか対策を考えておく。たとえ浅いところでも着水を甘く見てはいけない。

＊

JHFの技能証カードが6月から新しくなった。ハンググライディングとパラグライディング共通で、練習生・パイロット・教員の3種類。各カードのデザインは11ページでご覧ください。ホームページにも、さまざまな情報と掲載中。

JHF 広報出版局

JHFレポート 7・8月号

Contents

P 2 特集 PG&HG日本選手権報告

両日本選手権は天候に恵まれず不成立に。

P 4 緊急報告 事故に「ストップ！」

フライヤー各人が安全への強い意識を持つこと。

P 6 アメリカのレーティングシステム

P 7 ヨーロッパのフェスティバル 理事活動報告

P 8 県連だより P 9 県連ニュース 厚生活動補助事業について

P 10 新委員活動開始

P 11 理事会ダイジェスト JHSC議事録

P 12 @sky イベント報告、エッセイ等、空の楽しさ満載。

PG&HG 日本選手権

パラグライディング日本選手権は、まるで恒例になってしまったかのように不成立、
10月の予備日に勝負は持ち越しとなった。
その半月後に開催のハンググライディング日本選手権も、なんと不成立。
2000年代最初のハングチャンピオン誕生を見ることはできなかった。

■ 2000 パラグライディング日本選手権つくば 扇澤郁選手、貫禄のトップ。

今年のパラ日選は、4月12日から16日まで、茨城県新治郡八郷町のエアパークCooで開催。茨城県ハング・パラグライディング連盟が中心になって運営にあたった。

4月の八郷といえばクロスカンントリーの可能性大。ビッグタスクの期待に胸をふくらませて、全国各地から83名の代表選手が集まった……が、初日は朝から南風が強く、ウェイティングからのスタートになった。午後になっても風は弱まらず、残念ながら、競技キャンセル。

翌13日は、朝のうち東風が強かったが、気象情報によると気温減率もよく、グッドコンディションの予想。最初は烏山がゴールの予定だったが、さらに先の黒羽ゴールに決定。74.2kmのクロカンタスクだ。

10時45分、ゲートオープン。次々にテイクオフした選手たちは、一度北上して加波山のプレパイロンに向かい、それからテイクオフのスタートゲートが

オープンするまで上空で待機し、12時のオープンとともにゴールめざして一斉に北上を開始した。

だんだんと北のゴール方向にも積雲ができ始め、条件は予報どおり尻上がりによくなっていった。南から風が入り、舌なめずりして進む選手たちを後ろから優しく押してくれた……ののならよかったが、サーマルが風に流され、選手を苦勞させた。14時をまわる頃から大会本部にランディングの報告が入り始めた。かなりいい距離が出ている。14時15分には、ゴール役員から3機がゴールに向かっていてと連絡が入る。

14時25分58秒、扇澤郁選手がトップでゴールを切り、続いてSe Yong選手、加賀山務選手がゴール。結局7名が16分間にゴール、40km以上飛んだ選手が25名という、日本選手権にふさわしい素晴らしい競技展開となった。ゴールした選手の中で唯一スポーツ機で飛び、対地50mほどから上げ直してゴールした6位の石塚幸二選手、同じく奈落の底から這い上がり7位のタイムでゴールした水沼典子選手の健闘が特に光った。

この夜、高揚した空気の中でパーティーが開かれ、JHFの川添喜郎会長が開会宣言。八郷町町長、真壁町町長をはじめ多くの地元の方々も駆け付けてくださった。茨城県民族無形文化財の片野排禍(はいか)ばやし保存会の皆さんによる「八郷ひょっとこ踊り」も披露

され、大いに盛り上がった。また、Jリーグの1999年上位パイロットの表彰が行われた。(総合1位扇澤郁、2位川地正孝、3位武尾拓 女子1位田中美由喜、2位水沼典子、3位神山和子各選手)

3日めの14日は、前線通過にともなう南西の風が吹き込むという予報。その強い風に選手がつかまる可能性を配慮し、10時50分、競技委員長から競技キャンセルの発表。4日めも9時頃から雨が降り出しキャンセルに。

そして、いよいよ最終日。早いうちに雨はやみ、太陽を待ってウェイティング。12時30分、ウインドダミーがテイクオフ。思ったよりいいサーマル条件で、2本めのレースが期待された。13時10分、ゲートオープン。タスクは20.9km。選手は続々テイクオフしていったが、少し前の条件はどこへやら、上がりが弱く、第一集団はランディングしてしまった。その後もテイクオフするが上げられない状態が続き、時間切れ。ついにまた「不成立」となってしまった。残念。

日本選手権は10月の予備日を使って仕切り直しとなり、今回の競技はJリーグ大会として成立した。

●上位選手成績

[総合]

1位	扇澤 郁	富山県	1000点
2位	Se Yong	韓国	999点
3位	加賀山 務	東京都	991点
4位	加藤 豪	兵庫県	977点
5位	渡部 光一	愛媛県	974点
6位	石塚 幸二	茨城県	956点
7位	水沼 典子	栃木県	953点
8位	宮田 歩	茨城県	790点
9位	児島 彰	広島県	709点
10位	伊澤 光	東京都	653点

[女子]

1位	水沼 典子	栃木県	953点
2位	神山 和子	東京都	559点
3位	穴井久美子	山梨県	361点



優勝した扇澤選手。世界を舞台に活躍する。



総合1位～6位。JHF 小林副会長が表彰に。



女子1位～3位。水沼選手は総合でも7位に。

■ハンググライディング日本選手権大会 in 岩手 平林和行選手、無欲の勝利。

4月30日から5月5日まで、岩手県遠野フライトエリアで開催のハンググライディング日本選手権は、43.6kmタスクからスタートした。

遠野市街の西側、遠野三山のひとつである石上山の裾野に位置する山谷川テイクオフポイントは、北西、南西、東の3方向にテイクオフできる。広い牧草地がまるでヨーロッパのエリアのようだ。ここからテイクオフした選手たちは、遠野の町を中心にした遠野盆地をジグザグに飛び、ゴールをめざす。なにごと最初が肝腎、一発めからゴールすれば後の競技がグッと楽になると誰もが思うが、6.8kmのミニマム距離を越えられず、86名中44名もがすぐ下にランディングしてしまった。ミニマムを越えた選手たちもかなりの苦戦を強いられたが、11名のみごとゴール。平林和行選手が1時間20分で首位。外村仁克選手がファーストゴールのボーナス点を獲得し3位。2位はトップと3分差で和田典久選手。前チャンピオンの大門浩二選手は4位、1位との差は7分ちょうどだった。

本部に戻った選手たちは、地元のご厚意で日本選手権に合わせて開催された「綾織祭り」とウェルカムパーティーを楽しみ、明日は最高の飛びをと自分に誓うのだった。

5月1日、2日めは37.1kmタスク。盆地の入口でふるいかけられ、勝ち残った者が盆地を横切ってゴールに向かうことができる。いまひとつ安定しない天候で、近付く雷雨を気にしながらも、82名中60名がミニマムを越え、7名がゴール。1位外村、2位平林、そして3位にファーストゴールの大門。2本合計で、1位平林、2位外村、3位大門。連休中盤は荒天という予報が心配だが、なんとかなるだろう……と、この時は誰もが思っていた。

2日は、午後から雷雨という予報で昼前に競技キャンセルが決まった。3日は雨、4日は雷雨接近のためキャンセル。

そして、あっけなく最終日が来てしまった。午後から晴れるという予報に望みをつなぎ、選手は曇天のテイクオフポイントへ。

しかし、雲の彼方の晴れ間は一向に

近付いてこない。北風に震えながらウェィティング。やがて発表されたタスクは31.1km。ハング日選は3本成立、もう1本飛ばないと選手権者を選ぶことができない。

ウインドダミーが次々とテイクオフ。1機がいい上がりを見せたところで、いよいよ始まり……のはずが、なんと後ろから風が吹いてきた。大急ぎで裏側に移動し、ゲートオープン。ところどころ雲が切れ、なんとかミニマム越えできそうに見えたのだが、結果は、選手たちの奮闘虚しくミニマム到達ゼロ。2000年のハンググライディング日本選手権は、前代未聞の不成立となってしまった。

ポイントシステムの大会としては成立。1位の平林選手は板敷の大会について今年二度めの優勝。「勝つ」ことから「楽しむ」ことに意識を変えてから、いい結果を出せるようになったという。まさに無欲の勝利。

全国から集まった選手たちはもちろん、多くの時間とエネルギーを準備に投入してきた地元の方々や岩手県ハング・パラグライディング連盟を中心とした役員の皆さんの無念を思うと残念でならないが、天気が相手ではどうしようもない。

滝ヶ平太競技委員長が「大会誘致にあたって、選手にとっていい大会、地元フライヤーのためになる大会、地元遠野のためになる大会、この三本柱をコンセプトにしました。行政から助成金をもらいエリア整備を進めることができたし、遠野市や地元の人たちにたいへんご協力いただき、ハンググライ



総合1位～6位。中央が絶好調の平林選手。



女子1位～3位。左から陶山、福田、岡田各選手。

ディングへの理解を深めてもらいいい機会になりました。あとは、この動きを継続していくのが、難しいけれど、大切なことです。」というように、日本選手権としては不成立でも、遠野という土地に何かを残すことができたと思いたい。

■上位選手成績

〈総合〉

1位	平林 和行	茨城県	1690.7点
2位	外村 仁克	大阪府	1675.4点
3位	大門 浩二	茨城県	1648.6点
4位	和田 典久	京都府	1363.7点
5位	山本 貢	茨城県	1288.0点
6位	波多野康雄	兵庫県	1284.9点
7位	氏家 良彦	大阪府	1154.1点
8位	岡田 伸弘	静岡県	1106.3点
9位	村松 学	茨城県	1058.9点
10位	石川 力	岩手県	1049.6点

〈女子〉

1位	福田 佳代	茨城県	703.8点
2位	岡田 明子	静岡県	233.5点
3位	陶山 園恵	兵庫県	198.3点



テイクオフ地点から南を見る。最終日、みんな粘ったが……

事故に—— ストップ!

最近、立て続けに重大事故が発生している。事故は当事者に大きなダメージを与えるだけではない。このスポーツ全体の損失になることを、フライヤーはしっかり認識しなければならない。そして、真剣に自分の身と、このスポーツを守ることを考えねばならない。ここに日本ハンググライディング安全性委員会の報告を掲載する。私たちは、これらの事故から何かを学ぶだけの力を持っているはずだ。

■1999年事故傾向報告

昨年の特筆すべき点は、パラグライダーハーネスの足ベルトの締め忘れによる重大事故です。また、パラのライズアップ中や着水による重大事故も見逃してはなりません。水辺でフライトする際は、必ず浮力体を装備すべきです。

次の14件の報告を参考にし、このような事故はあくまでも他人事と受け止めず、いつ何時自分自身に起こるかわからないことと考えて、皆さんのフライトに役立ててください。

報告1: ハンググライダー

事故発生日時 4月29日
場所 新潟県弥彦エリア
経過 報告なし
強風時の飛行と思われる。(死亡)

報告2: パラグライダー

事故発生日時 5月22日 14時20分頃
場所 岐阜県付知町付知エリア
事故者 48歳男性(死亡)
経過 詳細不明
ハーネスのレッグベルト締め忘れ。

報告3: パラグライダー

事故発生日時 5月30日 9時頃
場所 鹿児島県吉松町
事故者 30歳男性(重傷)
経過 テイクオフ後、テイクオフ地点上空約10mからローターに遭遇し、左翼がつぶれ落下。

報告4: パラグライダー

事故発生日時 6月13日
場所 群馬県片品村丸沼高原スキー場
事故者 30歳男性(死亡)
経過 9時30分ごろ離陸し約1時間半の飛行をした後、着陸する旨仲間に無線連絡をし、スキー場中央のオートキャンプ場に向かった。着陸態勢に入っていたスキーグレンデ中央の上空30mのあたりで左翼が折れ、左急旋回で3回ほど回り、斜面に墜落してしまった。

報告5: パラグライダー

事故発生日時 7月24日 16時30分頃
場所 愛知県
事故者 52歳男性(無傷)
経過 ランディングの際オーバーヘッドアプローチを試みるが、進入路上の民家の上に着陸した。

報告6: パラグライダー

事故発生日時 8月7日 14時20分頃
場所 石川県
事故者 47歳男性(B氏)
経過 空中衝突。A氏は無傷、B氏は重傷。

報告7: パラグライダー

事故発生日時 8月7日 15時10分頃
場所 石川県
事故者 43歳男性(重傷)
経過 翼変形から失速し、レスキューパラを開傘。お尻から着地し強打する。

報告8: パラグライダー

事故発生日時 9月5日 16時15分頃
場所 静岡県東伊豆町三筋山エリア
事故者 53歳の男性(死亡)
経過 午前中風が強く15時頃風が収まってきたのでエリアゲートオープンした。16時頃、同空域には6〜7機が飛行していた。C氏は、南と北のテイクオフ地点(以下TO)の間をリッジを利用して4〜5回ソアリングしながら往復していた。C氏が、南側のTO近くのターニングに適した上昇風ポイントで、上昇風を利用しながらターンのため方向転換し、ホバリング状態で停滞しているときに、南TOよりの方向から、1往復してきた当該フライヤーの機体がターニング中のC氏の機体に上昇風にリフトされながら下方より接触。機体の一部が重なるように接触した。そのまま北TOと一緒に偏流飛行を開始した。50m程度5〜10秒つながって飛行しC氏の機体が突然左へ急旋回し当該フライヤーの機体が左に急旋回し離れ、地上に墜落した。C氏は、180度左へ旋回後墜落し斜面に激突。(重体)

当該フライヤーは、左翼がつぶれた状態で、約2回左旋回後に一度パイロットの体が、斜

面に接地し同時にキャノピーが回復し一度持ち上がった後再墜落し斜面に身体が衝突した。

報告9: パラグライダー

事故発生日時 9月12日 14時頃
場所 福井県
事故者 41歳男性(重傷)
経過 サーマルセンタリング中、片翼がサーマルから外れて片翼がつぶれ、スパイラルダイブ状態になったまま落下。

報告10: パラグライダー

事故発生日時 9月23日 10時30分頃
場所 栃木県
事故者 44歳男性(死亡)
経過 練習場でグランドハンドリングの練習中、サーマルで約5m上昇し、その後機体がタックに入り地面にクラッシュした。

報告11: パラグライダー

事故発生日時 10月24日
場所 熊本県
事故者 52歳男性(死亡)
経過 詳細不明
ハーネスのレッグベルト締め忘れ。

報告12: パラグライダー

事故発生日時 11月3日 15時20分頃
場所 宮崎県
事故者 44歳男性(重傷)
経過 ランディング場工事のため、隣接する場所にランディングを試みるが、誤って追い風でのランディングとなり、ブレークコードを引くタイミングを逃してしまった。

報告13: パラグライダー

事故発生日時 11月10日 13時30分頃
場所 岡山県
事故者 47歳男性(軽傷)
経過 グランドハンドリング練習中に突風にあおられ、止っていた車にぶつかった。

報告14: モーターパラグライダー

事故発生日時 12月31日

場所 福岡県糸島郡にぎの浜

経過 砂浜から北向きにテイクオフ。順調に直線飛行を行う。高度を上げ海拔30m付近で海側に左旋回を行った。その際、失速に入りスピニングして、水深1.6m程度の海中に落下した。ハーネスをはずすことができなかったようだ。10分ほどで岸まで救助されたが、呼吸停止、心停止状態であった。

■2000年緊急通告

JHFレポート5・6月号のアクシデントレポートからわかるとおり、今年死亡された方は2名でした。警告の意味をこめ、前号に緊急に差し込みましたが、何と！2000年5月18日現在、トータル5名の方の大切な命が犠牲になっています。恐ろしく速いペースです。まだ年末まで7ヶ月という時期に。このままで推移していきますと、諸先輩たちの努力により守られていた空の自由が、行政等の介入により、「飛行禁止」という形で奪われるかもしれません。

今一度、考えてください。

事故は他人事ではありません。

自分自身に起こることもありえます。

以下の報告から、皆さん自身に安全について考えてもらいたいと思います。

報告1：ハンググライダー

事故発生日時 1月23日 11時5分頃

場所 茨城県八郷町板敷エリア

事故者 67歳男性(死亡)

経過 当日は朝のうち北風、テイクオフはフォローの状態、11時近くになって風が南西に変わってテイクオフ可能な条件となる。事故の数分前に隣のメインランチャー台(3台あるうちの真ん中のランチャー台)から、テイクオフした他のフライヤーがサーマルリフトをつかんで上昇し始めたのを見て、当該フライヤーもテイクオフすべく機体を持って東のランチャー台に上がった。周囲にいた目撃者によると、当該フライヤーがハングチェックを誰にも頼まずに黙ってランチャー台に上がり、その時点では東のランチャー台の上に誰も居合わせず、当該フライヤーはテイクオフする旨のコールもしなかったようである。そのため、当該フライヤーのテイクオフの最初から最後までを見た目撃者は誰もいない。メインのランチャー台の上にいた他のフライヤーが、東のランチャー台から走り出す足音を聞いて振り向いたところ、当該フライヤーがランチャー台の中程を走っているのが目に入り、同時にカラビナがかかっているのに気づいて「手を離せ!」と怒鳴った。しかし間に合わず、ランチャー台からテイクオフした。当該フライヤーが倒れていた現場は、雑木林に覆われた斜面でランチャー台の先端から30mほど斜面を下ったところ。その場所から斜面を8〜10m上がったところにある樹木の根本付近の樹皮がめくれている、その2mほど脇にあごひものプラスチックの留め金と、シェルの左ほほの部分とが破損したヘルメットが落ちていた。機体は本人の倒れていた位置からさらに10mほど斜面を下ったあたりの、樹木の上に引っ掛かっていた。樹皮のめくれた木の周囲には他にも雑木が沢山あるが、それらには特に乱れがなかった。

操縦者技能証: XC-P証

報告2：パラグライダー

事故発生日時 2000年2月13日 13時26分頃

場所 和歌山県那賀郡紀の川フライトエリア

事故者 58歳男性(死亡)

経過 当日は、高気圧に覆われ朝から晴れていた。10時頃には、弱いサーマルが始め、初心者フライトも可能になる。12時を過ぎるとサーマルブローもやや強くなり、ほとんどの初心者はウエイトイングの状態になる。PG、HGの中上級者は次々とテイクオフしていた。当該フライヤーのテイクオフ時間は定かではないが12〜13時と考えられる。この時点での寺山テイクオフは、北北西の風3〜4m/s。しばらく飛行していたことは確認されている。この時、PG、HG共に40〜50機は滞空していた。広い範囲で上昇可能な環境にあり、当該フライヤーは、ランディングから高度1000mでゴルフ場の南よりを単独にて飛行していたことが確認されている。目撃者が竜門テイクオフから、ゴルフ場方面を見ると、竜門テイクオフとはほぼ同高度の位置から、スピニングしながら沈下してゆく機体を確認。13時20分頃、状態は、ネガティブスピン(回転軸が機体の中に入り緩やかな沈下を伴い機体が回りだす現象)に入り、しばらくして回復しタックに入る。そこからスパイラルに入ってしまう、バークスピン(回転軸が機体と人間との間に入り真下方向に回転する現象)に移行し、墜落した。どのようにしてスピニングに陥ったかの判断はつかない。目撃者なし。

操縦者技能証: P証 1996年2月22日取得経験7〜8年(月に10回ぐらい飛行)

報告3：ハンググライダー

事故発生日時 4月6日 14時00分頃

場所 和歌山県那賀郡紀の川フライトエリア

事故者 22歳男性(死亡)

経過 サーマルであげきれず粘りすぎて高度を失い、メインランディングにはとどかないと判断。竜門小学校グラウンドに緊急着陸を試みるが、サッカーをしている子供たちをよけようとして立ち木に激突する。

操縦者技能証: P証 経験3年

報告4：パラグライダー

事故発生日時 5月1日 11時18分頃

場所 静岡県朝霧フライトエリア

事故者 34歳男性(死亡)

経過 飛行中右翼の3分の1がつぶれ、回復動作中ロール方向の不安定さがあり、失速に入ってしまった、約20m下のテイクオフ地点に落下。

操縦者技能証: P証

報告5：ハンググライダー

事故発生日時 5月4日 時間不明

場所 広島県福山市

事故者 42歳男性(死亡)

経過 テイクオフは西南西の風5〜8m/s、ランディングは3〜6m/s。当該フライヤーは、この日2本目のフライトで他に2機が滞空していた。高度が低くなりランディング場内に進入する。しかし高いと思ったのか再度旋回をしたが左翼が上がり、左に機首を向けるようにコントロールしているのが確認されたが、直らず風下に通る高さ約16mと17mの2本の高圧線に右スパークが入り引かかる。1〜2秒後にショートし、ワイヤーが溶け、アスファルト舗装の道に落下した。

操縦者技能証: 不明 経験約25時間

以上の報告以外にも、2000年5月6日17時25分頃、鳥取県で川に着水し、意識不明の重体の方もいました。幸い意識が戻り、現在は療養中です。

その他に、パラグライダーのハーネスのワンタッチ器具をはめそこなったことについても報告がありました。次号で正規の報告をしますが、バックルは「カチッ」と音がしても、オス側のベルトを引いて、確実にメス側と一体になっているかどうかのチェックを行ってから、フライトにのぞむようにしてください。そして、クロスチェックの導入も各エリア管理者に要求します。

当委員会では事故ゼロに向けて皆さんのご意見をお待ちしています。ご連絡はJHF事務局TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312 Eメールkoji@mx3.ttcn.ne.jpまで。

[JHSC委員一同]

JHFと日本ハンググライディング安全性委員会(JHSC)は事故調査を行い、フライヤーに報告し警告を発するなど、事故再発を防ぐための努力を続けている。しかし、フライヤーひとりひとりが、事故という災厄が自分にもふりかかってくるものだと思えない限り、事故件数は減らないだろう。ここに報告を掲載したのは、空を飛ぶことが好きで、この楽しさを失いたくないと思っているあなた自身に、何故このような事故が起きてしまったのか考え、安全への強い意識を持ってもらいたいからだ。

飛行の楽しみをどうかいつまでも……

広大な国土を持つアメリカで実施されている
エグザミネー／オブザーバー制度とは…

アメリカのレイティングシステム

岡田 誠司

アメリカの技能認証システム

アメリカでは、日本のJHFに相当するUSHGA（合衆国ハンググライディング連盟）がパラグライダー及びハンググライダーの技能証を発給している。技能証の種類は日本のシステムとほぼ同じ5段階になっているが、アメリカのレイティングシステムは、日本のようにスクールの教員によって行われるのに加えて、エグザミネー及びオブザーバーと呼ばれる認定資格パイロットによっても行われる点が異なっている。昨年、私は日本人としては初めてこのエグザミネー／オブザーバーに任命された。ここで、このシステムについて紹介しよう。

アメリカの技能証の種類

アメリカのパラグライダー及びハンググライダーのレイティングは基本的には、P1からP4までの4段階。これに加えて地域のパラグライダーの発展に貢献した場合などの功績に応じて与えられるP5がある。

アメリカのフライトサイト（エリア）は、ほとんどのところが、ソロで飛ぶためにはP3レイティング以上、P2パイロットであればP4パイロットの同伴が要求される。

日本にはないオブザーバー／エグザミネー制度

日本では、A証、B証、NP証／C証、P証、XC証とそれぞれに応じた技能をスクールで取得し、スクールのインストラクターの認証を得てJHFに申請するが、アメリカでも基本的には、日本と同様、パイロットの技量と経験に応じてインストラクターが試験を実施し、USHGAにインストラクターの認証とともに申請して技能証が発給される仕組みになっている。

アメリカの場合、上のほかインストラクター以外にパイロットの技能を認証する資格を有

するエグザミネー／オブザーバー制度がある。

エグザミネー／オブザーバーは、いずれもP4以上の技能証を有していて、かつ、地域でのパラグライダー／ハンググライダーのフライトにおいて技能、安全飛行などにおいて指導的な役割を担っていると認められる者を、その地区のリージョナルディレクターがUSHGAへ推薦することによって任命される。

エグザミネー／オブザーバーの役割

エグザミネー／オブザーバーの役割は、大きく分けて二つある。

その一つは、新しくフライトサイトができた場合、あるいは従来からあるサイトだけれどもフライトプロトコル（フライトのための規則）が未整備のサイトの、サイトレイティング（そのサイトでフライトするために必要とされる最低限の技能レベル）を決定することだ。

エグザミネー／オブザーバーの役割の2番目は、P2パイロットのP3へのレイティングの認定、P3パイロットのP4へのレイティングの認定だ。パラグライダーを初めて体験する初心者には、スクールのインストラクターからP2のレイティングを取得する必要があるが、その後は、エグザミネー／オブザーバーの認定でP3、P4のレイティングが取得できるというわけだ。P2パイロットは、P2レイティングの取得後、フライトを通じてレベルアップをはかり、あるレベルまで達したと判断すれば、オブザーバーにP3レイティングのための試験を要請する。要請を受けたエグザミネー／オブザーバーは、フライトの実技試験とUSHGAの用意した筆記試験を実施し、規定のレベルに達していれば、エグザミネー／オブザーバーの認証とともにUSHGAにレイティングを申請するというシステムになっている。

なぜエグザミネー／オブザーバーシステムが必要なのか

このようなシステムがアメリカで導入されているのには、それなりの合理的な理由がある。アメリカでは、パラグライダー／ハンググライダーのインストラクターが法人化してスクール経営をしているケースは非常に少ない。ほとんどのインストラクターは、スクーリングあるいは機材のディーリングだけでは生活していくことが困難なので、他の仕事との掛け持ちでやっているか、あるいは、生活がエンジョイできればいいと割り切って、経済的にはかなり厳しい生活をしている場合が多い。すなわち、アメリカではパラグライダー／ハンググライダースクールは、フルタイムのビジネスとしては、なかなか成り立たないということだ。このような状況の中では、インストラクターの数も自ずと限られてくる。従って、アメリカの広い国土の中では、スクールに行って講習を受けようとしても身近にインストラクターがいない場合が多い。そのような場合は、1週間ほどの休暇を取って、インストラクターのいる場所に出向き、集中的に基礎的な技術とセーフティーフライトのための講習を受け、取りあえずP2を取得し、後は、自己の責任で腕を磨くことになる。その後は、上達に応じて各地区のオブザーバーに認証してもらうことになる。

もう一つの理由は、そもそもスポーツに限らず、生活に対するアメリカ人の考え方の違いがある。すなわち、アメリカは、建国の時から個人の自由を何よりもまさる価値としており、規制や規律は、自己責任に基づいて最小限にするという哲学が生活の基礎になっている。だから、車の免許だって、交通法規の試験さえ通れば自分の責任で練習して十分と思えば試験に行く。これと同じ考え方がパラグライダー／ハンググライダーにもあてはまる。スクールでは、パイロットにとって必要な基礎的な技術と安全に対する考え方を教え、その後は、自己の責任でフライト技術を取得することが期待されている。もし、パイロットがスクーリングが不十分だと思えば、いつでもアドバンスのスクーリングに戻ることはできるが、アメリカでは、一度P2スクーリングを受けて、その後のスクーリングに戻ってくるパイロットは非常に少ない。

日本のきめの細かいスクーリングシステムに較べると、ずさんなシステムのように思えるが、それでいて事故の件数がことさら多いわけでもないのは、やはり、広大な国土ゆえにフライト人口密度が極めて小さいという恵まれたフライト環境によるものであろう。

岡田誠司 ■PG歴11年。この春までアメリカのヴァージニア州在住。JHF/XC証、補助動力証 USHGA/P4、タンデムパイロット、エグザミネー



このスケールの大きさ！ カルフォルニア州オーエンズバレー。

ヨーロッパのフェスティバル

この春、ヨーロッパで二つの「フェスティバル」が開催された。ドイツの見本市とイタリアのお祭を訪れた岡芳樹さんに、会場の様子などを話してもらった。

■ドイツの見本市というのは……

岡 ドイツのガルミッシュというところで4月14日から16日まで開かれた「フリーフライト2000」です。ヨーロッパのパラグライダー・ハンググライダーのメーカー、輸入業者・スクールなど約70社が出店して、広い会場（スケートリンク）にと狭しという感じでフライトギアを並べていました。

■今年のニューモデルを見せる？

岡 それもあるし、既存のモデルもブラッと展示して、ハーネスは各ブースでぶら下げて試せるようにしていました。シミュレーターでフライトの模擬体験ができるコーナーもあって、これがおもしろかったですね。目の前の画面に風景と計器類の映像が出ていて、ハーネスのブレイクコードを引くと、画面が動く仕組みになっていて、リフトに入るとパリオの上昇音も鳴る

し、風景もそれなりに変わるんです。ちゃんとセンタリングしないとリフトからはずれてしまう。とても臨場感がありました。

■観客はフライヤーが中心ですか。

岡 一般の人もいたようですが、やはりフライヤーが多数で、大盛況でした。普段は雑誌広告などで眺めるだけのものも、実物を見て触れて試せる、こんな機会は滅多にないですから。風が悪くて、DHVのテスト実演やデモフライトのいくつかは残念ながらできませんでした。セミナーみたいなものとか、小さなフィルムコンテストもやっていましたね。とにかく、よくあれだけ出店して、よくあれだけの人が来るなあと感じました。

■イタリアはどうでしたか

岡 パサノで4月20日から24日まで開かれた「インターナショナルフライトミーティング」ですが、ハングやパラ、マイクロライト、ヘリコプター、軽飛行機、タコ、模型飛行機、ブーメラン(!)まで、飛ぶものなら何でもOKのお祭でした。地元企業が工場の機械類を外に出して、建物や敷地を作らせてくれて、フライヤーが多いけれど一般



多くの人を訪れたガルミッシュの見本市。



パサノではエレベーター付きTO台も登場。

の人も楽しめて、家族連れで遊びに来たりね。高さ30mの台を作って、ハングのL/Dコンテストもやっていました。

日本でも、ガルミッシュやパサノのような試みをしていきたいものですね。

理事活動報告

JHF理事は、それぞれが担当する事業が滞りなく進行するよう、さまざまな仕事をしている。

3月末から5月末までの活動内容を各理事に報告してもらおう。

●会長 川添 喜郎

3月31日：新技能証のデザインについて、小林副会長、業者と打ち合わせ。4月5日：来日中のDHV(ドイツハンググライディング連盟)副会長ゲンツ氏、技術部長バイニンガー氏と会談。両連盟間の協力関係等について意見交換。ゲンツ氏は20代の若さで発つと前向きさが印象的。またバイニンガー氏の話でDHVの機体の耐空性テストの実際を知ることができました。全国の教員やフライヤーにぜひとも知ってほしい内容で、事情が許せばその機会を作るべきだと感じました。9日：第24回鳥人間コンテスト(読売テレビ)の審査員として機体図面審査に参加。今回から原点に戻った企画で開催されることになりました。12日：パラグライディング日本選手権の開会式に出席。全国選手の皆さんの気迫を感じました。13日：日本選手権ウェルカムパーティー出席。Jリーグ上位者の表彰も。また八郷町・真壁町の町長と懇談。両町のハング・パラへの協力を感謝申し上げました。大会運営にあたった委員、スタッフの皆さん、ご苦勞様でした。19日：常任理事会 5月12日・13日：スカイレジャージャパン開会式に出席。今回は千葉県連盟(萩原光理事長)の皆さんがMPGのデモ飛行やハング・パラの体験会をやってくださいました。スタッフの皆さん、ご苦勞様でした。18日：安全性委員会出席。前日理事会で話し合われた、同委員会の改革案について協議。多くの建設的な意見をいただきました。

●副会長 小林 朋子

4月16日：パラグライディング日本選手権閉会式出席。その他、データ管理システム設計者、新技能証関連の業者、帳票類の印刷屋さん、事務局内業務

担当者らと打ち合わせ。教員、スクール、正会員への文書準備と発送、問い合わせへの対応等を行いました。

●常任理事 朝日 和博

3月総会後、決算作業に突入。この作業は短期間で1年間の総決算をするので、かなりのボリュームがあります。ひ弱な事務局体制の中で職員一同が力を合わせて頑張ってきました。何とか会計監査を受けて、6月総会に間に合うようにします。

●常任理事 関谷 暢人

4月19日：常任理事会出席。理事会運営について打ち合わせ。常任理事としての責任を痛感させられる。30日：ハンググライディング日本選手権(岩手県)開会式・レセプションに会長代理として参加。「会長・副会長がなぜ来ないのか」と質問され、代表者の責任を痛感。久々にハングの大会を見たが、機体のほとんどがキングポストレスで時代の進歩を感じさせられた。また、1機100万円前後もする機体を使用している選手たちを見ると、「世の中厳しくて大変だね」という言葉が飛び交う世間とは、次元が違って見えた。

●常任理事 横尾 和彦

4月3日：「平成10年度お年玉付年賀はがき寄付金の配分」監査について対策完了報告書提出。7日：平成11年スポーツ振興基金助成金について報告書作成。12日：スカイレジャー航空無線機の棚卸検査。5月10日：平成12年スポーツ振興基金助成金の申請書作成。

●理事 岩間 雅彦

5月の連休にハンググライディング日本選手権の閉会式に行ってきました。成立したフライトが2

本のみで、残念ながら日本選手権としては成立しませんでした。ハング日選で不成立は初めてだと思います。しかし、役員の方々の献身的な努力により、大会運営について選手の評判が大変よかったですので、少しほっとしました。

委員の改造時期のため、私が担当する教習検定委員会には大きな動きはありません。ハング教本はイラストの下絵が半分ほどできあがりました。A級/B級のイラスト入り原稿と、P証までのテキスト全文をホームページに掲載中です。<http://www.imasy.or.jp/~miwama/> から入手できますので、メール等でご意見をいただければ幸いです。

●理事 星野 納

現事点で新委員が確定しておらず、私が担当する補助動力委員会は開催されていません。現在、委員会ホームページの充実にも努めています。内容が特殊であるため、他委員会よりアクセスは少ないのですが、その分いいに読んで意見を寄せてくれる方が多いようです。6月中旬には、都合の許す限り次回MPG日本選手権会場へ下見に行きます。

●理事 松田 保子

4月18日、広報出版局の会議。オブザーバーとしてパラグライダーのベテランパイロットである梅澤馨さん、今井泰彦さんにも参加していただき、JHFレポートやホームページの内容について話し合いました。フライヤーの皆さんのニーズに応えられるレポート&ホームページめざして頑張らねば。5月17日の理事会で2人の広報出版局員が承認されました。ホームページを主に担当する日下部博さんと、JHFレポートの編集にあたる藤本美穂さんです。どうぞ応援してください。

県連だより

膳尾平野を流れる揖斐川、長良川、木曽川を眺める多度山エリア。

三重県フライヤー連盟 空を楽しむ仲間としてハングとパラの共存を。

理事長 松尾 英彦

再び講習生

パラグライダーでの空とのつき合いは12年ほどになったが、最近ハンググライダーを始めた。ハングは前々からやってみたかったが、なかなか踏ん切りがつかなかった。今回タンデム講習のおかげで再び空の講習生になり、初心に戻って新しい空の感動を得ることができた。

私は関東以西のエリアを転々と飛び回ることが多く、以前はハングとパラのフライヤーが和気あいあいとしていたエリアが多かったことを記憶している。

パラグライダーの人口が増加したこともあってか、年々ハングとパラのお互いの親密感が薄れていくように見えてしまう。

Bird's eye view

ハングに乗ってみると予想以上にパラと

視界が違うことに驚いた。翼と身体が近いこと、ハーネスのつり方の違いのため視野が制限されることに不安が残る。

一方、Bird's eye view、真下を見下ろし地上を見据える眺めは、パラからの眺めとは違い緊張するとともに新鮮に映った。

いろいろなところでハングとパラの接触事故を耳にする。確かにスピードの違いや視野の違いで思わぬところから相手が見えハットすることはある。

テイクオフやランディングを分けたり、空域を制限しているエリアもある。お互い双方の死角や動きの特徴を理解していればニアミスによるヒヤリハットは減らせると思うのだが、空を制限する前に、同じ空を楽しむ仲間としてさらなる相互理解はできないものであろうか。

私は、ハングに乗っているときにも、パラと一緒にセンタリングしたり、パラでハングを追いかけたりもする。ハングだからパラだからとあまり気にせず空を楽しめたらと思うのだが、ハングとパラのいい共存について諸先輩方々の知恵をお借りしたい。

偏流

もうひとつ私が感じたハングとパラと違う点は、これまでパラの方がスピードが遅いためクロスウインドを気にしないと流されるなどと思っていたのだが、私にとってはハングの方がより偏流修正を意識する。パラでは目線の方向とキャノピーの向きとが全く無意識に修正していたのだが、ハングでは目標に目線を合わせると自ずとノーズが目標に向いてしまい、風に流され目標からずれてしまう。まだまだ腕前は未熟なものである。

昨年、ハングのP証学科を受験、おなじみ

の偏流に関する作図の設問があった。試験は10年以上前に受けたパラのP証学科の時と同じものである。現在のハングとパラのP証学科試験は内容として違いはあるものの、実技を経てP証を受けるものであり、学科という点においてはお互いの技能証を信頼して、相互に免除されてもよいのではないだろうか。

三重県のエリア

三重県の代表的なエリアを紹介しよう。

北部から、木曽三川を望む多度山(ハング)、四日市と鈴鹿にまたがって宮妻・入道ヶ岳(パラ)。中部では津市に長谷山(パラ)、古くから講習場のある青山高原(ハング・パラ)、霊山(ハング・パラ)、伊勢スカイライン(ハング・パラ)、県南部の紀和町にはツエノ峰(パラ)がある。

現在、県内にパラグライダースクールがないため、近隣のスクールに通い技能証を受けて地元でのんびりフライトしている人が多いけれど、ビジターはどこのエリアも歓迎です。

また、2000年10月には、みえ・スカイフェスタ2000、パラシューティング世界選手権大会が伊勢志摩において開催されます。

その大会期間には、体験ダイビングや地元のクラブを中心にイベントを行う予定をしています。こちらにもぜひお出でください。

■三重県フライヤー連盟の連絡先

事務局(パズアイビュー内)

TEL/FAX.0594-24-2907

■ホームページ

<http://www.cty-net.ne.jp/~matazaim/para/>



元理事長の田口さん(故)を囲む県連メンバー。



救急救命など各種講習会やセミナーも開催。

県連ニュース

■秋田県ハング・パラグライディング連盟 【日選への秋田県代表の新選考方法】

ハングの日本選手権は不成立、パラは4月の本選が不成立となり10月に持ち越しとなった。

パラについては「またか……」という感じなのだが、それでも日本選手権出場をめざしてポイント獲得や、県代表の座をめぐる各県でいろいろな選考大会が行われている。

秋田県連でも県大会や選考会で県代表を決めてきましたが、天候不良や参加人数の減少であまりいいレースはできませんでした。そこで、2001年の代表選手選考は、県内の三つのエリアで固定タスクを設定し年間を通して記録に挑戦するという、スカイラリー方式で選考することにしました。

同じ日に同じ気象条件で戦うということにはなりません、パラやハングは自然相手のスポーツです。その日の気象条件をいかに読みきけるかが勝負です。日程に左右されず、自分の都合のいい日にチャレンジできるこの方法で、競技フライトをめざす人がもっとふえてくれればと思っています。

〔大縄 学〕

■山形県ハング・パラグライディング連盟 【県連主催大会の結果とお知らせ】

山形県連では4月22日(土)と23日(日)に県連主催によるスカイフェスティバルを開催しました。県内各クラブでいろいろと準備したものの、あいにくの天気でフライトできず、屋台やビンゴゲームなどで盛り上がりました。また、6月11日(日)には「フライイン庄内大会」を開催する予定です。

〔金井 誠〕

■宮城県ハング・グライダー連盟 【新役員が決まりました】

前号で、定例総会を4月29日に行うとお知らせしましたが、5月14日に変更になってしまいました。お詫び申し上げます。

この総会で県連役員が決まりましたが、今年は昨年に比べ立候補者が少なく、7名のみでした。とりあえず決定した役員をご紹介します。

○理事

小野寺幸則 三品 隆 尾形梅三郎
今井 政秀 小川 健一 高橋 健一
川越 敏明

○監査役(監事)

近藤 泰洋 音羽 隆宏

○委託監事 広報 岩松 正明

会計 飯塚とみ子

今年度から役員の任期は2年間となります。よろしくをお願いします。〔川越敏明〕

■東京都ハング・パラグライディング連盟 【第1回教員・助教員更新研修会を実施】

4月19日(水)、エアパークCooにて教員・助教員更新研修会を実施し、好評に終了しました。今後実施する今年度の更新研修会は12月3日(日)のみです。お忘れなく。◇都連主催・助教員検定会のお知らせ

2000年9月20日(水)午前9時～午後5時にエアパークCooで開催します。9月21日(木)を予備日とします。会場は茨城県新治郡八郷町上曽1698-1です。

詳細のお問い合わせは都連事務局のTEL.& FAX.03-5490-1129で受け付けます。

〔宮川一郎〕

■福岡県ハング・パラグライディング連盟 【県連主催大会結果報告】

95年に開催されたパラグライダー世界選手権。その舞台になった北九州にて、この春行われた二つの大会の結果を報告します。

北九州の平尾台にて「SSA平尾台パラグライダーCUP2000」が4月22日・23日の2日間に渡って開催されました。この大会は九州では初めてのF1大会ということと、フライト確率の高い平尾台とのことで、多くの人に期待されての開催となりました。しかしながら、天気は申し分ないものの、テイク

オフはフォローの強風で残念ながらフライトはできませんでした。あいにくの風でしたが、招待選手によるセミナーや地上でのパイロンレースなど、楽しい2日間を過ごすことができました。

翌週の4月29日は、福岡県の米の山にて「春らんまんカップ」が開催されました。この大会は、地元ラジオ局の主催する「篠栗春らんまんハイキング」に協賛していて5年前から開催されていますが、いまだかつて成立したことがありませんでした。集まった選手たちの予想とは裏腹に、当日は1700mまで上げて大会を放棄してクロスカントリーに出ていってしまう選手もいたほどのグッドコンディションに恵まれた大会となりました。

○春らんまんCUP上位者

ビギナークラス

- 1位 春田久美子
- 2位 廣田 渡
- 3位 濱武 秀次
- 4位 井上 敏喜
- 5位 石志すま子
- 6位 木村 佳代

オープンクラス

- 1位 徳永 浩之
- 2位 梅崎 貞司
- 3位 阿部 要子
- 4位 越智 善治
- 5位 フィリップ・シェスター
- 6位 藤田 隆雄

〔越智善治〕



春らんまんCUPの参加者たち。



パラで飛んできたサンタにプレゼントをもらう保育園の子供たち。(スカイ朝霧提供)

県連盟に報告をいただければ結構です。調査結果は「日本国内のフライヤーによる社会福祉活動に関する統計データ」として活用され、モデル活動については積極的に広報していきます。皆様のご協力をお待ちしています。〔理事 松永 文也〕

厚生活動補助事業について 身近な社会福祉活動について知らせてください。

今年度のJHFの総支出のうちの1%が社会福祉に充てられていることをご存じでしょうか。この1%の予算は「厚生活動補助事業費」と呼ばれ、フライヤーが草の根的に行っている社会福祉活動に関する調査を行うための予算です。調査は5月から8月の末まで行い、活動実績のある方や団体のうち、モデル活動に取り上げたものには謝金を交付し、活動を奨励するとともに、これを広報していくことを目的とした事業です。

対象となる活動は、2000年4月1日から2001年3月31日までの間に実施された、ま

たは実施される予定のハング・パラグライディングを通じた社会福祉の活動です。評価にはこの期間の他に、過去の活動実績も加わります。

調査はすでに始まっています。身障者や恵まれない人々のために無料体験会を行っている、毎年クリスマスにはサンタの扮装で養護施設に飛んでいきプレゼントを配っている、等々、社会に対して夢を提供していく活動を行っている人や団体、またはそういった活動をご存じの方は、所属の都道府県連盟にお知らせください。所定の調査票に必要事項を記入していただき、都道府

新委員活動開始

JHF事業の「実行機関」である常設委員会、やる気満々の新スタート。

JHF常設委員会の委員の任期が3月31日に終了し、4月理事会において立候補者から新委員が選任された。

6月1日、東京海上火災保険(株)会議室で新委員を集め、委員総会が開かれた。委嘱状伝達式、委員の役割と任務についての説明、JHF事業と予算の説明などの後、各委員会では委員長を選出、また委員会事業計画が立てられた。

ここで各委員会の顔ぶれを紹介しよう。なお、補助動力委員会と制度委員会は、候補者が定員に満たなかったため再度公募することになった。6月下旬には、全委員が揃うはずだ。



川添会長から委嘱状を受け取る山崎委員。

■パラグライディング(PG)競技委員会

委員長:曾我部 真人
副委員長:岡 芳樹
委員:扇澤 郁、清 貞雄、松原 彪
[活動予定・抱負]

FAIカテゴリー2大会の開催を奨励する。また、日本選手権をカテゴリー2として開催することを要望し、FAIパイロットランキング(WPRS)が何を意味するのか、パイロットに理解してもらう。(扇澤)

大会を通じてパラグライディングの普及をすすめるために、積極的に活動していきたい。より多くの人に参加してもらえ、魅力ある大会運営のための手助けができればと考えています。(松原)



左から、清、松原、扇澤各委員。

■ハンググライディング(HG)競技委員会

委員長:大澤 豊
副委員長:外村 仁克
委員:板垣 直樹、波多野 康雄、花岡 司
[活動予定・抱負]

新しい委員にポイントランキング上位のベテラン選手、波多野康雄を迎え、2001年日本選手権の開催計画や、ポイントの新計算式(レース4.0)実施のための具体的な検討をする。また、クラス2(リジットウイング)の日本選手権開催などにより、ハンググライディング競技の活性化、普及を図り、学生大会等をサポートすることによってハンググライディング全体の普及に努める。



前列左から大澤、外村、後列左から板垣、花岡各委員。

■教習検定委員会

委員長:小野寺 久憲
委員:毛涯 正澄、下山 進、田中 栄一、谷田 重雄、半谷 貞夫
[活動予定・抱負]

教習検定委員会という名称にとらわれず、教員の養成にも力を入れて、活動していく。また、現在教員として活動されている方々への、新しい技術、教員要領等の情報提供を通し、フライヤーから信頼される優れた人材の育成に努める。



前列左から谷田、小野寺、後列左から下山、毛涯、半谷各委員と担当の岩間理事。

■制度委員会

委員長:小林 秀彰
副委員長:沼田 敦子
委員:6月22日選任予定
[活動予定・抱負]

○理事会からの諮問事項

- 1.規程集の作成
- 2.JHFフライヤー会員登録に伴う都道府県連盟規約の検討とモデル案(複数)の作成
- 委員会から理事会への提案事項
- 1.セーフティアワード制度の検討継続
- 2.JHF運営規程の見直し(部、局、室の根拠等)
- 3.JHF公式文書の作成管理規程の新設



左から、担当の横尾理事、小林、沼田各委員。

■補助動力委員会

委員長:山崎 勇光
副委員長:高橋 正造
委員:6月22日選任予定
[活動予定・抱負]

以下の活動を行い、補助動力を3倍楽しむことを目標として委員会一丸となって頑張ります。

- 1.講習検定会
学科検定、実技検定
- 2.日本選手権開催
- 3.補助動力付ハンググライディング問題集作成
- 4.FLM(マイクロライト航空連盟フットランチド部会)との協調会議
- 5.ホームページの運用



左から、山崎委員、担当の星野理事と関谷理事。

理事会ダイジェスト

◆4月20日理事会

2000年4月20日(木)13時～17時 東京都品川区
ゲートシティ大崎ウエストタワー2階会議室

出席:川添喜郎・小林朋子・朝日と博・関谷暢人・横尾和彦・田中美由喜・星野納・松田保子各理事 欠席:岩間雅彦・松永文也・渡邊敏久各理事、坂本三津也・宮川雅博各監事 議長:横尾和彦

■2000年度JHF常設委員会委員の選任と委員総会について審議

常設委員会の委員公募に応じた候補者の中から新委員を選任。常任理事会の選任案について審議。PG競技委員会は岡芳樹、曾我部真人、清貞雄、扇澤郁、松原彪の5名とする案を賛成7で承認。HG競技委員会は波多野康雄、大澤豊、花岡司、外村仁克、板垣直樹の5名を賛成5、反対1、棄権1で承認。教習検定委員会は毛涯正澄、田中栄一、半谷貞夫、小野寺久憲、下山進の5名を承認。あと1名の枠に2名の候補があがったが、票が割れ決定不可能になったため、次回再審議とする。制度委員会は、沼田敦子、小林秀彰の2名を承認。定員に満たないため委員を再公募する。補助動力委員会は高橋正造、山崎勇光の2名を承認。もう1名の候補者については書類未完成のため再公募に応じてもらうことに決定(賛成5、対案…委員として承認する…に賛成2)。

■技能証と学科合格証の新方式について・JHF学科試験について

事務局より学科検定会開催方法について案が出された。後日、文書理事会にかけることとする。学科合格証の発行を止め、教習カード等に教員が学科合格を示す記入をすることで、その合格を証明することに。

■技能証カードの新デザインについて

6月1日から発行する新しい技能証カードのデザイン案が事務局から出され、投票で一つの案に絞った。

■補助動力付パラグライディング日本選手権規程の改定について審議

補助動力委員会担当、星野から提出された改定案について、前もって文書で検討、賛成5、棄権2で案のとおり可決。

●(社)JHF業務委託契約に関する細則(案)について協議

JHFが定款に基づく業務を外部に委託するための細則案が出され、これを協議した。

●JHF6月定例総会について協議

6月23日に予定している総会の会場について、また、議案について協議。

●2000年度補正予算について

補正予算案についての要望等を5月10日までに担当者(朝日)まで連絡することを確認。次回理事会で補正予算案について審議する。

5月17日理事会

2000年5月17日(木)13時～19時 JHF事務局会議室 出席:川添喜郎・小林朋子・朝日と博・横尾和

彦・岩間雅彦・田中美由喜・星野納・松田保子・松永文也各理事、坂本三津也・宮川雅博各監事 欠席:関谷暢人・渡邊敏久各理事 議長:田中美由喜

■JHF規程集について審議

制度委員会の小林委員と沼田委員に作成を委託した規程集の案が提出され、既存の規程等の部分のみ案を承認(賛成8)。なお、名称が内容にそぐわないため、適したものに変更する。(後日「制度総覧」という名称に決定。)

■2000年度JHF会計補正予算案について

朝日より補正予算案が提出され、事務局人件費の増額以外について、賛成6、反対1で、案を可決。また、事務局の増強費用(人件費)として、400万円を補正予算に加えることについて審議。賛成5、反対1、棄権1で可決。

■1999年度JHF会計収支決算案について

朝日より決算案が提出され、細部の変更を認めることを前提に、賛成7、反対1で、案を承認。また、特別会計の中の、会員証や技能証発行等に使う機器について、リースにするか一括支出にするかを審議。リースに賛成1、一括に賛成7で、一括支出し、資産として扱うことに決定。

■文書による審議の確認

文書理事会にかけた審議事項について、確認。

・学科検定会の開催方法について

学科検定員を廃止し教員に学科検定を実施してもらうにあたり、事務局から出された案を賛成7で可決を確認。

・教習カードについて

広報出版局より、タンデム課程と補助動力課程の教習カード作成を2000年度事業に追加する案が出され、賛成7で可決を確認。

・FAISポーターライセンスタイプについて

FAISポーターライセンスタイプ申請の事務手数料1,000円を徴集することを昨年12月理事会で決定したが、2月1日開始では連絡が行き届かず、4月1日開始と変更する案が事務局から出され、賛成7で可決を確認。

■委員の選任について

前回決定できなかった教習検定委員会の委員、あと1名について、再度審議し、谷田重雄を賛成5で承認。他の候補に賛成は3。

■2000年度委員総会について

6月上旬に委員総会を行うこととする。また、委員補充の公募締切を6月17日(消印有効)とし、6月22日の理事会で選任する。

■JHF 安全性委員会規約改正等について審議

安全性委員会のあり方を見直す案が川添から提出され、その中の具体案の一部について審議。安全性委員会規約を廃止し委員会規程に基づいて活動すること、常設委員会とすること、委員を6名とすること等を、賛成5、反対1、棄権1で可決。これを理事会案として提案する。

■JHF事業業務に関する保険加入について審議

JHF予算でJHF事業・業務に携わる者(役員・委

員・大会や催事スタッフ等)を対象に、傷害保険に加入することを、賛成7で可決。また、これまで日本航空協会を通して、JHF公認大会主催者賠償責任保険について、直接保険会社と契約することを、賛成7で可決。これらの経費は2000年度補正予算案に計上する。

■広報出版局員の任命について審議

広報出版局員から新局員候補2名の提案があり、賛成7で、これを承認。宮澤明局員にかわり、日下部博、藤木美穂の2名が新局員となった。

■6月通常総会について審議

6月23日開催予定の総会の会場を、羽田空港ターミナルビル「ビッグバード」とすることを、賛成7で決定。3月総会と同様、午前中は情報交換会を、総会終了後は懇親会を行う予定。また、総会議案を、規約の廃止について(安全性委員会)／規約の制定について(選挙管理委員会)／1999年度の事業報告の承認について／1999年度収支決算報告の承認について／2000年度補正予算について／選挙管理委員の選任について、とすることを賛成7で決定。

●事故対策について協議

重大事故が多発しており対策について協議。

この「理事会ダイジェスト」は、理事会で話し合われたこと、決まったことのポイントをまとめたものです(審議事項はすべて掲載)。議事録は各正会員(都道府県連盟)に送付されますので、必要の方は各正会員にご連絡ください。

新技能証カード登場

4月理事会でデザインが決まり、6月1日から発行がスタートした新しい技能証は、練習生・パイロット・教員の3種類(写真)。ハンググライディングとパラグライディング共通で、全部の技能証を取っても、この3枚にすべてのデータがおさまります。



●日本ハンググライディング安全性委員会(JHSC)議事録

■1999年度第10回委員会

日時:2000年3月16日(木)13時30分～17時

場所:JHF事務局会議室

出席委員:斎藤紀、岡芳樹、下山進、泉秀樹、幸路尚文

登録申請提出者:株式会社スポーツオーパカイト

◇型式登録審査

〈パラグライダー 新規登録〉

[プロトタイプ機]

・NOVA式VERTEX 22 プロトタイプ型(合格:XP-027)

・NOVA式VERTEX 24 プロトタイプ型(合格:XP-028)

・アドバンス式オメガ4プロトコンペプロトタイプ型(合格:XP-029)

・ウィンドテック式ウォーク29プロトタイプ型(合格:XP-030)

・DAE KYO式EDEL MILENIUM #MLプロトタイプ型(合格:XP-031)

〈ハンググライダー 新規登録〉

・Seedwings Europe式Viagro 14型合格:I-178)

@sky

空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。
いつでも心は空の彼方という人、必読！
肩の力を抜いて楽しんでください。
もちろん寄稿大歓迎。
特に「お題はなあに？」の体験談を待ってます！

スカイレジャー・ジャパンで千葉県連大活躍。

5月13日(土)と14日(日)の2日間、千葉県東葛飾郡関宿町のジャパンソアリングセンター関宿で、「スカイレジャー・ジャパン2000イン関宿」が開催された。1989年から毎年場所を変えて行われてきたスカイレ

ジャー・ジャパン、第12回のテーマは「川はわたしたちの命、空はわたしたちのロマン」。会場のジャパンソアリングセンター関宿は、江戸川左岸河川敷のグライダー滑空場で、地元の人たちにも親しまれている。その広い空間で、小型飛行機、ヘリコプター、熱気球、スカイダイビング、模型飛行機、マイクロライト機、グライダー、ハンググライダー、パラグライダー等の展示、デモフライト、模擬体験が行われ、写真展や紙飛行機工作教室も開かれた。

主催の実行委員会の構成団体としてJHFも参加。千葉県ハンググライディング連盟が、日本マイクロライト航空連盟FLM(フットランチド部会)と合同でモーター



モーターパラの編隊飛行は大好評。(林康治さん撮影)



クレーンを使ってハンググライダー疑似体験。(林康治さん撮影)

付きパラグライダーの編隊飛行を披露し、盛んな拍手を浴びた。また、クレーン使用のハンググライダー体験、マンパワートーイングや土手からのパラグライダー体験に、千葉県連盟のボランティア約60人が大活躍。あいにくの不安定な天候で雨に降られたが、1日めの入場者数が約35,000人、2日めが約80,000人と盛況だった。一般の人々がスカイスポーツを直接見て模擬体験もできる、こんな催しが身近な場所でもっと多く開かれると、ハング・パラグライディングへの理解も深まるだろう。

◇やっぱり僕も人間だもの

無線がとれて3本目位、初めて上昇気流に乗った。どんどん地面が遠くなっている、テイクオフを上空から眺めた時、ああ、自分は鳥になったんだ、と実感した。調子に乗った僕は、次の日もいいサーマルをゲットして、山際で鳥になっていた。うまい具合に1周2周と回っていると、ある時から今まで森だったはずのものが木に、そして枝に、そして葉に…。その後は、鳥よりしく枝に降りてしまった。うまい具合に枝には降りられず、ああ、自分は鳥ではなくて人間なんだな……と実感し、これからは安全に飛ぼうと思った瞬間だった。

ペンネーム：山沈アフロ

◇やわらかい午後の光の中で…

その日は穏やかな南風が吹いていました。なだらかな南T.Oは初めて。私は、まだ無線誘導で18本目でした。一生懸命に走ってテイクオフ。LD目指してまっすぐ飛んでいると、イントラから無線が。

「そこで360度旋回をしてみろ。」

えっ!!それって噂に聞くサーマルソアリングではないのですか? 360度旋回も初めてな私はあっというまにトップアウト。山の向こう側の町が見えるほどゲイ

ンしたのでした。

ペンネーム：たとえサルといわれても

◇単純往復作業でも…

僕のはじめてのソアリングは、リッジソアリングでした。風が結構吹いてきているときに、どきどきしながらテイクオ

お題は なあに?

みんなでバラせば怖くない!?

秘密の大空体験を一挙公開。

今回のお題は、「初ソアリング」だよ。

フしたその後には、いくら飛んでも全然落ちない夢の世界が待っていました。無線誘導の時とは比べ物にならないその楽しさに、先輩たちが疲れたり飽きたりしてどんどん降りていく中、一人で3時間も飛んでしまいました。そんな僕は今も単純往復作業が大好きです。

ペンネーム：リッジが呼吸

◇天のくれたトップアウト

B級を取得し、初ソアリングを経験しても間もない頃、「上がらないから、そろそろ諦めようかな」と思ったところで、小さなグランドサーマルをゲット。期待もせず回してみたら、どんどん上がる。気付けば何と初トップアウト!先に降りてしまった人たちを尻目に、サーマルひとり占め状態。あれは、無欲で黙々と粘った僕への神様からのプレゼント?

ペンネーム：頑張っている隊長

■次回のお題は「イントラにも申す」

このコーナーでは、お題にそった皆さんの体験談をお待ちしています。笑える話、ホロリとくる話、ビックリする話、大歓迎。200字程度の文章にして、EメールまたはFAXでお送りください。ペンネーム、氏名、住所、電話番号、Eメールアドレスも忘れずに書き添えてください。作品採用の方には、ささやかなプレゼントあり!

Eメール: koho@jhf.skysports.or.jp

FAX: 03-5840-8312

「JHFレポートお題はなあにに係」まで。次回の原稿締切は7月15日です。なお、文章の主旨を変えずに編集させていただくことがあります。

パラグライダー

栗山 公秀

今昔物語 第二話 ATHLETE

懐かしのあの機体、忘れられないこの機体、 日本のパラグライディング史に名を残す翼、再登場。



パラグライダーの性能はどんどん向上し、1988年に入ると、パラグライダーでのソアリングの可能性が現実味を帯びてきます。そんな中、FALHAWK ATHLETE(アスリート)が登場します。

翼中心に直線部をのこした美しいテーパー(先細)翼で、エアインテークは完全に翼下面に配置されました。これにより今までエアインテークを開けるために切り落とされていたリーディングエッジ(前縁)が初めて生まれます。潰れの不安からリーディングエッジに10cmほどのパテンが入っていました。

エアインテークはメッシュで塞がれてます。これはエアインテークの変形防止をねらったものですが、とりわけインテーク部のローアサーフェス側の振動を抑える効果が大きかったと思われます。初期のATHLETEは2本ライザー。フロントライザーにAラインとBラインが来てたので、ライズアップはめちゃくちゃ重かったのを覚えています(その後3本ライザーに変更されます)。

はじめてATHLETEに乗ったときの衝撃は今でも忘れられません。今までのパラグライダーは、少し滑空比のいいパラシュートといった程度でしたが、ATHLETEの飛びは明らかに滑空機です。

音からして違ったもんな。今までは「ばたば

たばたっ」て感じだけど、ATHLETEは「しゅーっ」て感じ。今では当たり前のソアリングを実現してくれたのはATHLETEが最初でした。

装備も変わりました。ハーネスはシッティングタイプ、そして初めて緊急パラシュートとアルチバリオメーターを装備しました。緊パラはブライダルコードがやたら長く、ハンドルのつかみにくいものでした。

バリオはオーパの名機AV101(懐かしいアイテムだねえ)。デジタルアルチメーターにサウンド&アナログバリオ搭載(それだけ!)で、¥96,000もしたものです。

1989年の春、茨城県足尾エリアに待望のPGテイクオフがオープン、さっそく飛びに行きました。テイクオフしてからバリオの鳴るあたりをうろうろしてたら高度が落ちない。そのうちバリオが連続音になってきたので雑誌で読んだように旋回してみると、あらあら高度がどんどん上っていくじゃないですか!(これがサーマルソアリングか)。今まで見上げるものだったテイクオフがだんだん目の高さに迫ってきます。

しかし悲しいかなパラを始めて1年強、全く(!)ソアリング体験のない僕は、高度がテイクオフを超えたあたりから次第に怖くなってしまっていました(唾、今思えばめちゃく

ちゃおいしいコンディション……。センタリングを止めてランディングに向かいましたがバリオは鳴り止まない。結局そのままびりっばなしで150mほど上昇して無事ランディングしました。すごいねーなんて皆に言われてばつが悪かったです(そう言えば「お題はなあに?」は初ソアリングでしたね)。

ちなみにこの年の12月、グサビエ・レモンがナミビアで127kmのクロスカントリー記録を樹立(ADVANCE Sigma)これを機にXCの舞台は南アフリカに移ります。

その後エアインテークメッシュとパテンを除いてシンプルにしたATHLETE-Neo、Neo-Rと改良され、新型機が登場しても初中級機として長くファルホークのカatalogを飾っていました。

しかし初中級機として晩年を過ごしても名前はATHLETE。たいそうな名前をつけられると苦労するのは人間も同じですね。

栗山公秀(くりやままさひで)

初フライトは1987年7月、それ以来パラにはまる。コンペにも参加していたが今は月1~2日程度のマンスリーフライヤー(とほほ)。ホームエリアはスカイパーク宇都宮。現在二児の父。

「チャレンジすることが好きだから……」

世界記録保持者、ゴドフリー・ウェネスにひとことインタビュー



左端がウェネス氏。通訳してくれたエディさん、宮田さんと。

1998年11月16日、パラグライダーで335km飛び、ストレートディスタンスの世界記録を樹立したゴドフリー・ウェネスが、オーストラリアからクロスカントリーの期待に湧く4月の日本にやって来た。

■世界記録を作ることができたのは……

G.W あの日には朝から世界記録を出すことができる気象条件が揃っていた。(上空まで南風が同じ方向に吹いていた。)200kmを越えたところで、いいクラウドストリートの下を飛ぶことができたんだ。

■何故、世界記録にチャレンジするのですか。

G.W チャレンジすることが好きだから。はじめはオーストラリア記録に、それが達成できたら今度は世界記録に……という具合だね。もう一つは、オーストラリアのエリア、マニラの名を世界に広めたいから。(山から飛んで安全にXC記録を作ることができることをね。)

■そもそもパラグライディングを始めた動機は?

G.W 鳥のように飛びたいから! パラグ

ライダーは安い値段で簡単に、しかもうまく飛ぶことができる。

■どんな点にパラグライディングの魅力を感じますか。

G.W 飛び続けることで自分の限界(目標)にチャレンジできるところ。

■今後の課題、目標はどんなことですか。

G.W タンデムのXC世界記録225kmを昨年12月に達成したので、次は、ソロフライトで400km飛ぶこと。

■今回の滞在で一番よかったこと、嬉しかったことは?

G.W 日本のフライヤーと親睦を深めることができたこと。今回、日本でのXCフライトは条件に恵まれず、いい記録を出すことができなかったけど、また来年日本に来る理由ができたよ。(リベンジするために)

□ Godfrey WENNESS

1967年5月1日生まれ、33歳。オーストラリアのマニラ在住。PG歴12年。PGインストラクター。エリア運営にあたり、オーストラリアでPGの安全基準を決める仕事もしている。(インタビュー協力 宮田 歩)

@sky

● 大会報告 ●

2000板敷山スプリングフライト

2000年3月18日～22日

茨城県新治郡八郷町板敷山エリア

[総合]

1位	平林 和行	茨城県	2455.4点
2位	板垣 直樹	茨城県	2334.4点
3位	高橋 元樹	千葉県	2332.3点
4位	氏家 良彦	大阪府	2190.4点
5位	大門 浩二	茨城県	2151.4点
6位	鈴木 博司	三重県	2059.9点
7位	菊池 守男	神奈川県	1947.6点
8位	峰岸 正弘	茨城県	1887.4点

[女子]

1位	陶山 園恵	兵庫県	937.1点
2位	井手 有生	兵庫県	871.1点
3位	岡田 明子	静岡県	840.1点

★ポイント大会の2000年シーズン第2戦目となる今大会は、日本一のロングディスタンスを誇っている。この大会の名物となっている白河ゴールは出来なかったものの、初日に53km、2日目38.9km、3日目は15mを超す強い北風のためキャンセル、4日目に黒羽ゴールの64km、最終日も北風が強くなるという予報のもと競技はキャンセルとなったが、5日間のうち3日競技ができ天気には恵まれた大会だったといえよう。日下部 博

帰ってきたNASA CUP

2000年3月31日～4月2日

茨城県新治郡八郷町 足尾山エリア

[総合]

1位	大門 浩二	茨城県	338.5点
2位	太田 昇吾	千葉県	328.7点
3位	平林 和行	茨城県	325.9点
4位	外村 仁克	大阪府	314.5点
5位	富原 淳	埼玉県	311.1点
6位	福田 佳代	茨城県	282.7点
7位	高橋 元樹	千葉県	260.8点
8位	小林 正和	千葉県	236.8点
8位	古坂 学俊	茨城県	236.8点

[女子]

1位	福田 佳代	茨城県	282.7点
2位	佐々木優子	神奈川県	110.8点
3位	井手 有生	兵庫県	62.9点

★足尾山エリアでハンググライダーのポイント大会が開催されるのは3年ぶり。名付けて「帰ってきたNASA CUP」。一番条件のいい春に開催したものの、気まぐれな天気に翻弄された3日間だった。初日はゲートオープンが遅れたため、雲が張ってしまい渋い条件の中での勝負となった。2日目はとても強い西風のため、あえなくキャンセル。そして、最終日は南西の風が強く、アゲンストに向かったパイロンまでで終わってしまった。成立本数は2本だが、トータルのRVFが1000に満たなかったため、ポイント大会と

しては不成立となってしまった。NASA CUPも帰ってきて早々にかっこ悪いので、またどこかに行こうかと思っていたが、NASAの中島社長の一言で来年も開催されることになった。日下部 博

リジットウイングミーティング
NASA CUP 2000

2000年4月1日～2日

茨城県新治郡八郷町 足尾山エリア

[総合]

1位	板垣 直樹	茨城県	112.5点
2位	倉田 実	静岡県	22.5点
2位	塩野 正光	栃木県	22.5点
2位	島 馨	東京都	22.5点
2位	伊藤 秀信	愛知県	22.5点
2位	亀井 重孝	長野県	22.5点
2位	上野 陸	茨城県	22.5点
2位	石井 賢哉	長野県	22.5点

★日本一のエリアで、日本で最初のリジットウイング(クラス2)による大会が開催された。

初日はとても強い西風で残念ながらキャンセルとなった。スタッフ、選手一同の期待を集めた最終日だったが、南西の風が強く、アゲンストに向かったパイロンまでで終わってしまい、天気に翻弄され、消化不良のまま幕を閉じてしまった。日下部 博

NEWS!

■砂間隆司172kmXCフライト

4月8日・9日に茨城県八郷町足尾山エリアで「ハンググライディング足尾山オープンカップ2000」が開催され、競技中に砂間隆司選手が171.6km 飛び、優勝を決めた。

ハンググライダーのストレートディスタンス国内記録は、1988年4月17日に足尾山から北へ富原淳さんが飛んだ172km(非公認)。あれから12年、当の富原さんをはじ



ちょっと控えめ(?) ガッツポーズの砂間さん。

め多くの挑戦者が記録更新を狙ったが、いまだに誰も実現できずにいた。オープンカップが開かれる時期は、クロスカンントリーの可能性が大だ。当然、今回は選手たちは「あわよくば……」と考えていた。

大会初日は強風で競技できず、翌9日は晴れ、南の風。今日は100km オーバーの日という、気象予報士であり選手でもある内藤邦裕さんの言葉に勇気付けられ、選手は強い風に吹きちぎられたサーマルを乗り継いで北上。砂間さんは、先走って降りてしまわないよう自分を戒め、高度維持につとめ慎重に進んでいった。那須の山並みを越えるときには単独になってしまったが、その後も追い風に乘って距離を伸ばし、福島市の北東側の川原にランディング。GPSで距離を確認した砂間さんは、自分が国内記録と同じ距離を飛んだことを初めて知った。

正確な飛行距離は171.6km。記録に数百メートル足りなかったものの、このフライトはハング界に新たな可能性を見せてくれた。再び勢いが増したクロカンへの意欲が、来年こそ実を結ぶかもしれない。

■裁判所のポスターにパラが大活躍!

平成12年度裁判所事務官採用のポスターにパラグライダーの写真が使われている。この写真のモデルは、提案した本人、裁



気持ちよさそうに沼田さんが飛んでいるポスター。

判所に勤める沼田敦子さん。パラを始めて12年になる彼女は「開かれた裁判所」というテーマを聞いて、青空に浮かぶパラのオープンなイメージがいいのではと、ポスター案を考え応募した。エリアは、岡山県玉野市の王子が丘。青く澄んだ空が印象的なこのポスターは、7月上旬まで全国の裁判所に掲示されている。



岡山県ハンググライディング連盟 パラグライダー大会2000

2000年4月2日

岡山県上房郡 北房高原スカイパーク

[パイロットクラス]

1位	薮 哲行	1. 1m
2位	河上 哲也	1.25m
3位	谷本 勝則	1. 7m
4位	吉見 利文	1. 9m
5位	原 健一	2.05m
6位	鳴坂 達典	3.4m
7位	西岡 真宏	3.55m
8位	森川 和弘	5.4m

[ノービスパイロットクラス]

1位	大竹 和江	3.1m
2位	竹内 博一	3.9m
3位	榊井 剛	7.6m
4位	荒木 圭典	13. 3m

★今回の会場「北房高原スカイパーク」はまだ誕生して1年にも満たないエリアである。フライト確率の良さや町の協力態勢、パイロン設置の自由度の高さなどから、今後、有望なエリアと言える。

競技内容はパイロンレースの予定だったが、サーマルがほとんど無く、後に雨の予報もあったために急遽ターゲット大会となった。昼前後、一瞬サーマルが上がってきたため、パイロンレースを開始したものの、渋くなくなってしまい、結局キャンセル。ターゲット大会の結果が本大会の最終成績となった。

産本 元



ハンググライディング 足尾山オープンカップ

2000年4月8日・9日

茨城県新治郡八郷町 足尾山エリア

[総合]

1位	砂間 隆司	愛知県	171.6点
2位	岡田 伸弘	静岡県	147.8点
3位	伊沢 茂	茨城県	141.1点
4位	富原 淳	埼玉県	118.6点
5位	石井 賢哉	長野県	116.7点
6位	内藤 邦裕	千葉県	113.9点
7位	大沼 浩	茨城県	109.7点
8位	大門 浩二	茨城県	109.4点

[女子]

1位	酒井 夕子	東京都	55.9点
2位	尾見 京子	千葉県	51.0点
3位	福田 佳代	茨城県	17.9点

★風が強く、飛べない条件になる日が多い中、今年で13回目を数える今大会が開かれた。初日は強風の為、競技はキャンセル。迎えた最終日。視界が悪かったが強い南風が幸いし、120km付近に優勝候補が次々と降りてしまう中、砂間選手は、日本記録に迫る171.6kmを飛んだ。足尾は、この大記録で興奮の渦となった。閉会式は23時頃になってしまった。みなさんお疲れ様でした。

日下部 博



鳴倉山オープンカップ

2000年5月3日

新潟県小出町 鳴倉山フライトエリア

★5月3日と予備日の4日の両日とも天気に



HG 足尾山オープンカップ、テイクオフ開始！

恵まれず、不成立となった。 南雲 昌孝



2000立山らいちょうバレーカップ

2000年5月3日～7日

富山県立山らいちょうバレースキー場

[総合]

1位	扇沢 郁	富山県	1000点
2位	高木 弘志	愛媛県	870点
3位	川地 正孝	神奈川県	831点
4位	薮 哲行	兵庫県	815点
5位	山下 敏雄	石川県	815点
6位	只野正一郎	兵庫県	813点

[女子]

1位	田中美由喜	東京都	640点
2位	穴井久美子	山梨県	624点
3位	植田 明美	茨城県	585点

★大会期間中、天候の変化が早く、1日のみの成立となった。しかし、成立した大会の内容を見ると、選手のレベルの向上も見られ、30kmゴールを半数のパイロットがこなすなどレースの展開もおもしろくなっていた。

田中 美由喜

4月・5月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は技能証No.)

パラグライディング

18374	田村 潔	18409	栗田 高伸
18375	河合 雅樹	18410	田中 政行
18376	鈴木 弘之	18411	田中ひろ美
18377	岩田 勝行	18412	千田真由美
18378	上妻 研介	18413	富田 弦
18379	山川 隆行	18414	小笠原由起
18380	浅田泰治郎	18415	濱武 秀次
18381	磯貝 俊夫	18416	高橋 進
18382	正木 孝明	18417	青木 明子
18383	辻 千恵子	18418	香川 宏紀
18384	佐藤 恭治	18419	糸藤 一郎
18385	大江 武弘	18420	鈴木 菊美
18386	吉岡 範明	18421	中野 清光
18387	小林恵美子	18422	岡野 善記
18388	小林 京子	18423	上田 茂夫
18389	林 正則	18424	関口 雅子
18390	杖尻 充生	18425	坪井 佳子
18391	湯川 和人	18426	高村 茂
18392	仲 康夫	18427	日野 直行
18393	向井 保夫	18428	福岡 淳
18394	堂面 泰造	18429	堤 隆貴
18395	比嘉 広和	18430	佐々木辰弥
18396	榎本 房雄	18431	宮 武博
18397	重田 昇	18432	島田 憲治
18398	池上 弘子	18433	池田 茂樹
18399	池田 静保	18434	立岩 敬子
18400	栗原美奈子	18435	元 和生
18401	広瀬 豊	18436	楠本 隆
18402	脇 義富	18437	澤田 繁
18403	砂川 丈夫	18438	杉本 義夫
18404	佐藤 満	18439	小山 美香
18405	野口 仁美	18440	吉住 二郎
18406	高橋 安夫	18441	川田 節子
18407	清水 博司	18442	小侯 敦義
18408	西山 憲治	18443	

空のかお

その32

仲 康夫さん

(なか やすお)



70歳でパラを始め73歳の今春、念願のP証を取得した仲さん。週末は和歌山の田辺でフライトを楽しんでいる。仲さんのフライト経歴は長く、戦時中は海軍航空隊で戦闘機を操り、戦後は軽飛行機、マイクロライトでフライトを経験したという空の大ベテラン。「パラで風を直接感じながら飛ぶのはまるでトンビの気分」と渾然と話されていた。これからも安全でのんびりとしたフライトをモットーにパラを続けたいとのこと。いくつになっても新しいことに挑戦する仲さんを見習いたいものです。

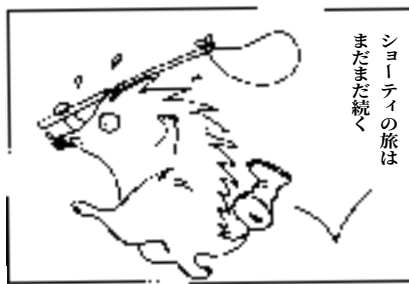
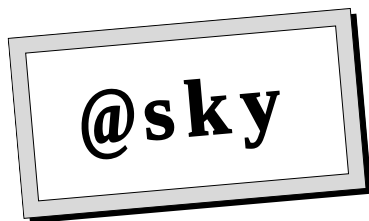
18444	桑野 英司	18458	須田 裕志
18445	荒木 圭典	18459	猪狩 敦子
18446	奥野 康司	18460	伊藤 正美
18447	嶋田 久美	18461	小林 高
18448	早野 裕香	18462	立川 信衛
18449	川本 昌平	18463	小橋 龍一
18450	小島 啓	18464	岡 佳緒里
18451	竹口 進一	18465	上家 博一
18452	川田 美智	18466	千秋 健志
18453	岸本 張雄	18467	坂本 直哉
18454	関田 保彦	18468	斎藤 侃
18455	上野 浩幸	18469	阿部 忠正
18456	石黒 斉	18470	城田 宏一
18457	仲澤 信	18471	原澤 延幸

18472	会田 道宏	18474	瀧澤 かおり
18473	ANAK AGUNG BAGUS MAHAWAN	18475	今野 誠也
		18476	下川 浩一

18472	会田 道宏
18473	ANAK AGUNG BAGUS MAHAWAN

ハンググライディング

4856	武 靖浩	4863	加藤 実
4857	小田 晃嗣	4864	上河美都志
4858	久保 雅義	4865	藤野 昭仁
4859	田代 純子	4866	田村 文明
4860	成瀬 俊数	4867	梅木 俊秀
4861	上田 佳央	4868	藤井 正昭
4862	藤原 基		



次号に続く！

カレンダー

場は開催地、連は連絡先です。

7月						
MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21 海の日	22	23
24 31	25	26	27	28	29	30

■第24回鳥人間コンテスト選手権大会(イベント) 7月28日・29日 場 滋賀県彦根市琵琶湖松原水泳場 連 読売テレビ大会事務局 TEL.06-6947-2314

E-mail: toriningen@ytv.co.jp

■パラグライダーフェスティバルIN浜名湖<第18回パラグライダー静岡県カップ> 7月29日・30日 場 静岡県三ヶ日町浜名湖フライトパーク 連 静岡県フライヤー連盟 TEL.053-526-0141

■第10回猪苗代パラグライダーカップ 8月5日・6日 場 福島県猪苗代町猪苗代フライトエリア 連 福島県連事務局 TEL&FAX.0241-36-3363

■2000北海道スカイスポーツフェアinいしかり(イベント) 8月20日 場 北海道石狩市石狩川河川敷 連(社)北海道スカイスポーツ協会 TEL.011-232-4347

■東日本パラグライダースカイフェスティバルin田村富士(PG大会) 8月26・27日 場 福島県船引町片曾根山 連 福島県連事務局 TEL.&FAX.0241-36-3363

連絡ノート

JHF

フライヤー

●技能証カードが変わりました

6月1日から技能証カードが変わりました。ハング・パラ共通で、練習生・パイロット・教員の3種類です。カードの素材は環境のことを考えてペットボトルをリサイクルしたものに、顔写真もきれいに印刷されるので、お楽しみに。新しいカードのデザインは11ページをご覧ください。

8月						
MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

■但馬空港フェスティバル2000(イベント) 8月26日・27日 場 兵庫県但馬空港 連 但馬空港フェスティバル実行委員会 TEL.0796-23-1404 <http://www.d2.dion.ne.jp/~taf>

■2000高山ホルンバレーカップ(PG大会) 9月15日~17日 場 長野県高井郡高山村山田温泉スキー場 連 高山ホルンバレーカップ実行委員会 TEL.03-3608-8626(アエロタクト内)

■2000パラグライディング日本選手権 10月6日~9日 場 茨城県新治郡エアパークCoo 連 PG日本選手権実行委員会 TEL.0299-44-1408(エアパークCoo内)

■ワールドエアゲームズ(ハンググライディング世界選手権)プレ大会 6月24日~7月6日 場 スペイン

■ハンググライディングヨーロッパ選手権 7月8日~23日 場 オーストリア

■パラグライディングヨーロッパ選手権 7月27日~8月13日 場 ドイツ

■スピードグライディング世界大会(HG大会) 7月28日~8月5日 場 ギリシャ

■アクアレーシー世界選手権(PG大会) 8月12日~18日 場 イギリス

●技能証申請書が変わりました

技能証の申請書も6月1日から変わりましたので、ご注意ください。これまで添付してもらっていたフライヤー登録証や技能証のコピーは必要ありません。詳しいことはお近くの教員にお尋ねください。

●学科検定会が受けやすくなりました

学科検定員制度を廃止し、4月1日から教員がそれぞれ学科検定を随時行えるようになりました。最寄りの場所で気軽に検定が受けられますので、希望者は近くの教員にご連絡ください。

●学科検定合格証が変わりました

学科検定の合格証は教員が発行することになりました。申請料は必要ありません。

●編集を終えて

脱皮第2号のJHFレポート、もっと楽しい特集を組みたかったのですが、事故の緊急報告を入れる事態に。皆さん、何より安全を第一に飛んでください。今号から新広報出版局員、藤木美穂さんが編集に参加しています。 JHF広報出版局

JHF ホームページもご覧ください。

<http://jhf.skysports.or.jp/>

JHFレポート7・8月号(No.160)

発行日 2000年6月20日 定価10円
発行 (社)日本ハンググライディング連盟
〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11
春日Shimaビル8階
TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312

編集 JHF企画部広報出版局
印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。

5月31日までのフライヤー会員登録数

登録年数	3月31日までの登録数	4月の登録数	5月の登録数	有効登録数
1年	994	436	1,159	2,589
3年	808	336	721	1,865
合計	1,802	772	1,880	4,454

4月・5月の技能証発行数

ハンググライディング				パラグライディング			
技能証種類	4月の発行数	5月の発行数	5月31日の発行数累計	技能証種類	4月の発行数	5月の発行数	5月31日の発行数累計
P証	10(1)	3(0)	4,868	P証	53(15)	50(11)	18,476
C証	6(4)	8(2)	6,834	NP証	65(16)	48(9)	8,999
B証	13(3)	4(3)	11,423	B証	63(12)	72(16)	40,022
A証	6(0)	3(3)	10,828	A証	56(17)	79(17)	43,473
補助動力証	0	0	124	補助動力証	0	0	908
XC証	8(2)	2(0)	1,115	補助動力NP証	0	1(0)	66
タンデム証	1(0)	4(0)	30	補助動力B証	1(0)	0	126
				補助動力A証	1(0)	0	157
				XC証	19(3)	15(2)	3,653
				タンデム証	23(0)	19(2)	278

*()内の数字は発行数中の女性の人数です。